

氏名	大 岩 太 郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 8 号
学位授与の日付	昭和36年 7 月18日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	過剰抗原による過敏性反応の抑制阻止に関する実験的研究
論文審査委員	教授 大田原一祥 教授 大平昌彦 教授 三上芳雄

#### 学 位 論 文 内 容 要 旨

過剰抗原による過敏性反応の抑制阻止に関する実験的研究。

諸種免疫反応に於ける抗原抗体の結合量的関係や阻止現象，更にこれら試験管内反応様相を基礎とした生体内反応に於ける抗原抗体の量的関係等に就て多くの報告が行われている。そこでアナフィラキシーに於ける抗原抗体の量的関係をより広範囲に観察する目的でモルモット被働性皮膚アナフィラキシー実験を行い，反応の強さと抗原抗体量との関係を反応の場として示し，或る程度まで試験管内反応様相との平行性を証明した。次にモルモット局所過敏症実験を行い過剰抗原による反応の抑制或は阻止を認め，特に逆アルツス現象では試験管内反応に極めて類似した反応様相を認めることが出来た。更にモルモット被働性過敏症に於ても可及的，少量感作及び大量抗原再注射を行うことにより抗原過剰によると考えられる反応抑制を認めることが出来た。

本論文の第1編はアレルギー第9巻第4号（昭和35年4月1日発行）に第2，3編はアレルギー第9巻第5号（昭和35年5月1日発行）に記載

## 論文審査の結果の要旨

大岩太郎提出の「過剰抗原に依る過敏性反応の抑制阻止に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

従来各種の免疫反応に於て、これに関与する抗原、抗体の量的関係がその反応の強さを左右し、好適比率の場合は反応が促進され、抗原過剰の際には抑制、乃至は阻止される事実が主として試験管内反応について明かにされているが、生体内反応に於てはこれ等の関係が未だ充分解明されていない。著者は皮膚 Anaphylaxis, Arthus 現像, 逆 Arthus 現像, 及び海猿全身性被働性 Anaphylaxis について抗原、抗体の量的関係を Heidelberg の抗体N定量法を用いて極めて精細且厳密に検討し、生体内に於ても試験管内に於けると同様の関係の存在を確認して免疫反応の発現機序に新しい知見を加えたもので、高く評価さるべき研究である。

以上の通り、本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有するものと認める。